

会 議 録

会議名	令和８年度第２回東松山市子ども読書活動推進懇談会					
開催日時	令和８年７月１３日（月）			開　会	午後３時３０分	
				閉　会	午後５時００分	
開催場所	東松山市立図書館３階研修室					
会議次第	1　開会 2　あいさつ 3　議事 ・第２次東松山市子ども読書活動推進計画期間における取組状況について 4　報告 5　その他 6　閉会					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数		１名	
非公開の理由 （非公開の場合）						
参加者出席状況	座　長	森田　隆	出席	参加者	西岡　里枝子	出席
	参加者	金子　郁美	欠席	参加者	石原　冬樹	出席
	参加者	宮原　陽子	出席	参加者	岡村　益美	出席
	参加者	吉野　元基	欠席	参加者	荻野　真美	出席
	参加者	飯塚　規文	出席	参加者	菊池　奈緒子	出席
	参加者	岩崎　慶一	出席	参加者	岡部　成志	出席
事　務　局	市立図書館長　荻野　裕			市立図書館主査　佐藤　幸恵		
	市立図書館主査　岡部　宏章			市立図書館主任　原田　美帆		
	市立図書館主任　堀　千尋					

次 第	顛 末
1 開会	事務局
2 あいさつ	座長 森田氏
自己紹介	前回欠席のこども支援課 飯塚副課長の自己紹介
会議の公開、会議録署名委員の指名	会議の公開、傍聴人、会議録署名委員の指名について （岡部主査）会議を公開とするか非公開とするか、傍聴の申込みは1名あったこと、会議録の署名人を指名することについて、説明。 ・会議については公開、傍聴希望者の傍聴、会議録署名人は宮原氏と岡村氏を指名することについて、全員了承。
3 議事	・第2次東松山市子ども読書活動推進計画期間における取組状況について 1 乳幼児を対象とした取組 （事務局 佐藤主査）説明 （森田座長） 説明が終わりました。ご意見、ご質問をお願いします。方向性の矢印の向きについてもご意見いただければと思います。 （高坂ひまわり保育園 西岡氏） 当園においても、すべての年齢のクラスで毎日読み聞かせを行っています。アンケートにもあったように、保育者が選ぶだけでなく、子どもたちが常に自分たちで本を選べるような時間を設けています。また、身体の大切な部分や、嫌だよというような心の気持ちの本など、言葉では説明できない内容の本を活用して、園児へ指導をしています。どこかへ行ったり、誰かに来てもらったりということはあまりないのですが、外部の方に来ていただいての人形劇は毎年開催をしていて、読むのと違った形でお話を聞いて楽しんでいます。 （まつやま保育園 菊池主査） セカンドブックが来年度からなくなるのはなぜでしょうか。

	(こども支援課 飯塚副課長) 財政上の理由です。令和４年度出生のお子さんが最後という形になり、今年度発送分をもって終了ということになります。 (事務局 佐藤主査) 昨年度の受け取りの実績が３３２冊で、現在の在庫が３３０冊ありますので、今年度中の事業継続は可能であると見込まれます。 (事務局 荻野館長) 乳児検診のブックスタート事業の昨年度実績が４９２冊、セカンドブック事業の実績が３３２冊というところで差分があり、それが中期財政計画による見直しの対象となる要因の一つとなってしまったものと考えられます。 (まつやま保育園 菊池主査) セカンドブックの配布については終了するというのですが、ブックリストは配布いただけるのでしょうか。 (事務局 荻野館長) 市立図書館としては、来年度以降のブックリストについても健診時に配布できるよう考えていますが、３課での合同の事業ですので、３課で調整の上、取り組んでいきたいと考えています。 (こども支援課 飯塚副課長) 見直し対象となった理由の話に戻りますが、対象の子どもに対しての絵本の引き渡し率がブックスタート事業で９９．６％、セカンドブック事業が５７．１％で差があり、これが見直しの対象になった原因の一つであると推測されます。 (事務局 荻野館長) ブックスタートは乳児健診の時に渡していて、セカンドブックは図書館に取りに来なければならないというところの差だと思います。
--	---

	(まつやま保育園 菊池主査) セカンドブックは図書館に来てほしいという思いもありますね。 (事務局 荻野館長) おっしゃるとおりです。 (森田座長) 岡村さん、「つくしんぼの会」で乳幼児といつも接していて、何か感じることや取組などありますか。 (つくしんぼの会 岡村氏) 会でミーティングがあったのですが、以前は大きめのお子さんも読み聞かせに来られていましたが、最近は小さいお子さんが増えており、どのくらいの年齢の子を対象としたものを読めばいいのか課題となっています。対象年齢の合わないものを読んだ場合にお子さんが飽きて帰ってしまわないように、参加者を見て難しそうだから違うのにしようということをやっており、会の皆さんが素早い対応をしてくれ、行っているような状況です。 (森田座長) ありがとうございます。 セカンドブックについては、これまで実施してきた意味というものは大いにあったと思います。財政難という状況はどこの自治体でも同じですので、なくなったものをうんぬんという議論はせず、話題にも挙がっていましたブックリストの配布など、今後できることを工夫しながら、事務局を中心に考えていただければと思います。 2 小学生を対象とした取組 (事務局 佐藤主査) 説明 (森田座長) 説明が終わりました。ご意見をいただければと思います。
--	--

	(まつやま保育園 菊池主査) 朝読書を実施していない小学校というのは、朝の時間帯に授業が詰まっておりスケジュール的に大変な状況だと思います。また、一度止めてしまったものを再度始めるというのはハードルが高いと思うので、そこについてはどういった形での働きかけを想定されていますか。ただ「やってください」というだけではなかなか難しいのかと思います。私自身も松二小で読み聞かせをしています、ボランティアの方がなかなか集まらないという課題があります。現役の児童の保護者として参加くださっている方がほとんどおらず、児童が卒業したが厚意で残ってくださっている方や、地域のご高齢の方が来てくださっているのが現状です。朝読だけではなく、ボランティアも課題となっています。 (森田座長) 前回の会議で、朝の時間が取れなくなったという話もありましたが、その辺はどうなのでしょう。 (生涯学習課 岡部主幹) 朝読書には生徒の気持ちを落ち着かせる、という効果があり、多くの学校で採用されたという時期がありました。ただ、現在は学校では音読が重視されています。音読には、見る・理解する・話す・聞く、ということで視覚、認識、口を動かす、音、4つの要素を行う必要があるため、子どもにとっては脳の運動になる、という捉え方をされており、黙読より1段階上の脳の鍛え方であると考えられています。現在低学年では毎日のように音読の宿題が出ており、量も増えている、という状態で、朝読書を行う学校が減っているというのはその影響もあるのかなと考えております。音読には効果があるというところからも視点が変わってきている、ということがあるのかもしれません。 (学校教育課 岩崎副主幹) 以前もお話しした内容かもしれませんが、働き方改革の一環としての教育内容の精選という流れの中で、朝の活動が削られている学校も多いのかなと思いますし、また、一度止めたものを再度実施す
--	--

	るということに意義を見出せないとなかなか復活とはならないため、各学校の裁量によるところが大きくなっていくのかなと感じました。読み聞かせボランティアが集まらない、という件に関しては、図書館としては、読み聞かせボランティア講座を行っているということなので、就学時健康診断や、入学説明会などで説明を行ったり、チラシを配布するなどしたりするなどの、周知の広げ方ができればよいのかなと思います。そういったことができれば、「私はできない」と思っているような人たちが気軽に「やってみようかな」と思えるような環境が作れるのではないかと考えます。 (森田座長) 資料1の2ページ目、放課後児童クラブの部分ですが、方向性の矢印が右上がりとなっておりますが、利用数などが伸びているのでしょうか。 (事務局 荻野館長) 放課後児童クラブについては、6割くらいの団体が登録していますが、実際に使用している児童クラブが3団体、放課後子ども教室についてもすべての団体が登録はしているもののここ数年の利用は1校のみとなっています。放課後子ども教室は、登録を一斉に行ったという経緯はありましたが、その後は、学校ごとの活動の中で、利用することとなっていますので、繋がっていません。登録数というよりは利用実績について、注視をする必要があると認識しています。 3 中学生・高校生を対象とした取組 (事務局 佐藤主査) 説明 (森田座長) 説明が終わりました。同様にご意見をいただければと思います。まず、中学校からお願いします。 (白山中学校 図書主任 石原氏) 私が白山中に赴任した際、大量に図書を廃棄してしまったという
--	---

	ことがありましたが、その背景についてお話させていただくと、劣化した本というのを間引くということもあったのですが、その時代のトレンドに合った本というものがあり、またそのあと増えていった本もあり、必要のない本というものも出てきて、これを活性化していかないと、子どもたちが図書室に寄り付かない、ということがありました。現在白山中で取り組んでいるのは、トレンドの本、発行年数の比較的新しいものを選んでの購入、また、この後も廃れないであろうことが予想される国内の近代以降の文学作品を整備することです。子どもたちが何を読むか、また何を読ませたいか、ということ意識して本を揃えていかないとそっぽを向かれてしまう、というのが実情かな、と感じています。冊数だけではなく、中身をみていかないとだめだなと思います。 また、図書の購入を行って受け入れると現在ではデータを作成することができますが、過去購入したもののデータがわからなくなっており、不用意に捨てられなくなっています。市にお願いしたいのは、図書予算をもっとつけていただき、古い書籍を廃棄すると新しい書籍を購入できるような環境を作っていただきたいという点です。同時に、白山中としては冊数の確保のために保護者や卒業生に書籍の寄付をお願いしています。 朝読書に関しては先ほど岡部先生からも言及あったところですが、朝読書を廃止した後の生徒の精神的な乱れが著しかったことがあり、多くの学校が朝読書を再開しているという状況だと思います。再開したことにより、生徒の落ち着きが目に見えて違ってきています。 読書活動の推進については、私は担当ではないのですが、国語の授業の中で一年生が夏休み前に夏休みの本に関する単元があり、それに合わせてビブリオバトルを行っています。ご参考までに、面白いことがあって、「ビブリオバトル自体は好きだが、本は読まない」「意見を言ってどちらが良いプレゼンをするのは好きだけど、本はあまり好きではない」という生徒がいます。また、逆に本が好きな生徒が必ずしもうまく本をプレゼンできるとは限らないということもあります。本好きな子どもはみんなとワイワイやるのが好きではなく、静かに本を読みたいという子が多いのが要因かなと思います。ビブリオバトルの実施方法が、班分けをしてその班の中で勝ち残っ
--	--

	た子どもが班の代表としてクラスの中で競い合うということで、子どもたちは10冊程度の本の内容を知ることになるため、本との接点を作るという意味ではやる価値があるのではないかと思います。 図書だよりについては、資料では保護者への啓発と捉えられていますが、中学生なので保護者向けではなく、生徒たちに向けたものとなっています。本校では図書だよりはやめて図書室にある本を紹介する小冊子を図書委員が作成し、それを利用者が自由に見るということを行っております。子どもたちが紹介をすることによって自分たちの目線にあった本であったり、自分の友達が紹介していることによって、教職員が同じことをするよりも興味を持ちやすいという効果が期待できます。 (森田座長) 東松山市のノーゲームデーの扱いは現在どうなっていますか。 (学校教育課 岩崎副主幹) ノーゲームデーについては継続していますが、最近、SNS、YouTubeといった当初想定されていない子どもの遊び方というものも増えてきており、ノーゲームという定義について教育委員会として見直さなければいけない状況になってきており、学校ではそういったものを含めてノーゲームデーを実施しています。 (森田座長) ノースマホデーのような内容も含まれるという認識でよろしいでしょうか。 (学校教育課 岩崎副主幹) 当然、スマートフォンでのゲーム等も含まれます。 (森田座長) 宮原様より、高校の取組状況についてご説明頂いてよろしいでしょうか。
--	--

	(松山女子高校 学校司書 宮原氏) 学校司書が配置されている点や予算規模の点で高校は小中学校とは環境がかなり異なると思います。県立高校においては学校司書が事務職員と同じような立場でおり、毎日、図書館のために働いているという意味でかなり充実した活動ができているのかなと思います。特色ある読書活動も、司書が中心となって、先生の力も借りながら進められますし、また、その他のいろいろな活動も年間を通じてコンスタントに進められているのは司書が配置されていることが大きいと思います。設置母体が違うので何とも言えないところだと思います。 全生徒を対象としたビブリオバトルは、松山女子高の場合は学年行事で、年1回行います。読書活動の推進の一環としてのビブリオバトルですが、ある種の働きかけにはなるとは思いますし、一つの読書活動の推進としては魅力的だと思います。論理的思考力や発表のスキルを育むという意味もあります。準備するのは大変ですが、読書が嫌いな子でも年に1回はやらなければならないので、紹介された本の内容が頭に残るという意味合いもあり、図書館で展示をするとよく利用されます。ただ、市立図書館の取組ともかかわるのですが、校外のイベントに出たいかという、それはちょっと、という子が多くて、全体的に積極的なタイプの子どもが減ってきており、こちらから声を掛けないと参加が見込めなかったりするので、ビブリオバトルは見栄えのする活動ですが、ビブリオバトルばかりに偏るのはどうかと思います。また、本人が出場しても友達が応援しに来るということがないので、発表する本人のスキルアップや発表の場としては有意義でもティーン層を図書館に呼び込む訴求力という点は疑問が残ります。都市部の方では、曜日を指定してお菓子の持ち込みやお話しながら勉強することなどを許可してティーンの子を集める、サードプレイスの利用の方向性を打ち出している図書館もありますし、学校図書館でもそういった方向性を出している所が出始めています。本当はそういう方向性を探ればよいのですが、本を利用する、情報を活用するというような今まで通りの図書館像のイメージが強いと思うので、ティーンズを呼び込むイベントやなんでもありの日などを設定するのは難しいだろうなとは思いますが、ジレンマとして感じています。
--	---

	4 読書活動に支援が必要な子どもたちへの対応 (事務局 佐藤主査) 説明 (森田座長) 説明が終わりました。同様にご意見がありますか。 (健康推進課 荻野主査) りんごの棚とはどういったものでしょうか。 (事務局 荻野館長) スウェーデン生まれの図書館の取り組みで、近隣の小川町が日本で初めて設置しており、LLブックや布の絵本などの誰でも読書が楽しめる資料を集めた書棚です。市立図書館のカウンター脇に今年の12月に設置をしており、高坂図書館にも同時期に設置をしております。 基本方針Ⅱ子どもの読書活動の啓発・普及 (事務局 佐藤主査) 説明 (森田座長) 普及啓発に関して、紙媒体のみによる周知では不足と言わざるを得ず、ホームページもあまり閲覧者が多いとは言えない状況で、何か取り組めるものを第3次計画には載せられるとよいと考えております。 また、資料1で示されている方向性の向きについて、全体的に精査したいと考えますが、下降となっているものはありませんが、問題ないでしょうか。実際問題として団体貸出などは下げざるを得ないのではと考えますが。 (事務局 荻野館長) ご指摘の通り、数値での比較という形になれば下がらざるを得ない指標もありますが、事務局の姿勢として下げることはどうかということから現状維持としています。もちろん、皆様からのご意見の中でやはり数字をもとにして考える必要があるということになれば
--	---

	下降となるものがあったとしてもよいという認識です。 (森田座長) この件に関しては、図書館協議会の委員さんのご意見もあるかと思しますので、このページはここまでとしたいと思います。次ページの朝読書の方向性についてはいかがでしょうか。 (生涯学習課 岡部主幹) 現状維持と改めるか、上昇とするのであれば、各学校に黙読のメリットを先生にも子どもにも伝える必要があるかと思います。 (事務局 荻野館長) 第3次計画の案を作成する中で、朝読書に関しても方向性を示せればと考えています。 (森田座長) 資料1の2ページ目の放課後児童クラブについても上昇の方向性となっていますが、こちらはいかがでしょうか。 (事務局 荻野館長) 意気込みを反映したという形であり、現状とは解離してしまっている向きもあるため、現状維持でもよいかと思います。 (生涯学習課 岡部主幹) これを超えたら、よくやっていると言えるような何らかの指標があるとよいと感じました。 (森田座長) 団体貸出を受けても管理ができないので、不要という施設もあると思われます。そのあたりも踏まえると上昇というのは厳しいのではと感じました。 (森田座長) 資料1の3ページ目「読書活動に支援が必要な子どもたちへの対
--	--

	応」の２項目について上昇となっていますが、いかがでしょうか。 (事務局 荻野館長) この２項目につきましては、国の計画にも多様な子どもたちの読書機会の確保という項目が新たに取り込まれており、それに対応する形で上昇と設定しました。 (森田座長) 皆さん、様々なことに取り組んでいますが、予算的なことなどもあり、厳しいと思います。工夫して取り組んで行くしかないと思いますので宜しくお願いします。 ここまでの意見を踏まえ、第３次計画での取り組みについて精査いただければと思います。
4 報告	(事務局 佐藤主査) ※未就学児および小学校２年生・５年生の保護者対象の読書アンケートの実施および小中学生向けの読書アンケートの速報値に関する報告
5 その他	(事務局 岡部主査) 次回会議の日程 １０月１９日（月）で調整。
6 閉会	(事務局 荻野館長) あいさつ (事務局 岡部主査) 閉会
上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。 令和 ８ 年 ８ 月 ２ 日 署名 宮原 陽子 署名 岡村 益美	